

## 人参湯は高血圧に悪影響をおよぼすか？

ある薬局で私が最近交付していた患者さんの話なのですが、降圧剤を服用しているのですが中々血圧が下がらないと言います。また、胃腸の具合も悪いので人参湯エキスを常用されています。その時は服用続けて様子見てくださいと言っていたのですが、薬歴には「A：人参湯エキスが血圧コントロールに悪影響を与えている可能性はないか？」と記載しておきました。その後も血圧不安定で薬剤が変更になったりしており一度医師に情報提供したほうが良いかもしれないということで、再度、人参湯の血圧に及ぼす影響を調べてみました。私の知識の中では人参湯に含まれる人参が血圧を上げるという認識があったのでそれを再確認してみようとしたわけです。

### 人参湯エキス

人参湯とは、乾姜、甘草、蒼朮、人参の4種類の生薬から構成される漢方薬エキス剤で、ツムラ人参湯エキスの添付文書による適応は「体質虚弱の人、或いは虚弱により体力低下した人の次の諸症急性・慢性胃腸カタル、胃アトニー症、胃拡張、悪阻（つわり）、萎縮腎」となっています。下痢にも使用されます。

添付文書上、高血圧関連で注意する項目としては

**禁忌：アルドステロン症の患者**

**併用注意：甘草含有製剤で偽アルドステロン症**

**重大な副作用：偽アルドステロン症（高血圧、浮腫、低K血症など）**

などが高血圧に関連する記載と考えられます。

内容からみますと、甘草由来のグリチルリチン酸が関与する記載のみと言えます。

添付文書上からは甘草が血圧に悪影響を与える因子として知れますが人参の記載は一切ありません。

### 人参について

漢方薬で用いる人参はウコギ科オタネニンジンの根の部分です。単品としての作用は「心下部（みぞおち付近）のつかえを取り除き、食欲不振、嘔吐、下痢、腹痛を主に治し、精神を安定させ、体液を生じさせて元気を補う」となります。

薬理的な表現をすると、血液循環の改善作用、糖代謝や脂質代謝の改善、抗ストレス作用、抗疲労作用、抗老化作用、抗胃潰瘍作用、抗炎症作用、免疫能の賦活作用など数多くの作用が知られています。

ちなみに食用の人参はセリ科ニンジン属の植物で薬用とは植物分類学上異なる植物です。

## 人参の血圧への影響は？

結論からいうと、血圧を上げるという報告と血圧を下げるという報告が混在しています。しかしながら、最近の報告では血圧を下げるという報告が多い。ということです。

### 【血圧を上げるという報告】

「漢薬の臨床応用」(中山医学院編)によれば、高血圧の症状のある患者で頭痛・めまい・のぼせ・目やに・怒りっぽいなどの肝陽上亢の症状があるときは、人参を多量に服用すると脳の充血をおこしやすく、ひどければ脳卒中生じる。・・・収縮期血圧が 180 mmHg 以上のものは、どんな型の高血圧症でも服用すべきでない。人参を長期間服用すると、頭痛・不眠・動悸・血圧上昇などが生じることがあるが、服用を中止すると次第に消失する。などの記載があります。(⇒私の知識はこの辺りで止まっていたようです)

### 【血圧を下げる成分もあれば、上げる成分もある】

「モノグラフ生薬の薬効・薬理」(鳥居塚著)によれば、人参成分による一酸化窒素(NO)産生促進による血管拡張作用や血圧低下作用の論文を紹介する一方で、成分によっては血圧を上げる論文も紹介しています。血圧の高い人の場合は減量するか血圧のモニタリングが必要という論文も紹介しています。

## 結局どうなの？

先の本の著書の鳥居塚教授に電話で確認したところでは、文献で紹介したように必ずしも一定の見解があるとは言えないが、180mmHgをこすような血圧の高い人には慎重に投与した方がよいだろうということでした。

## 今後の方向性は・・・

いずれにしても、人参湯の中には、添付文書中にも注意を喚起している「甘草」由来の血圧を上げる成分と、文献的には血圧を下げる、上げるという相反する報告が存在しているものの、他の生薬と異なり血圧に何らかの影響を与える「人参」が入っているので、現に血圧が異常に高いような人への投与には注意が必要でこれらに関する情報提供を医師にすべきでしょう。



### 【参考資料】

“漢薬の臨床応用” 中山医学院編(1979年)医歯薬出版

“モノグラフ生薬の薬効・薬理” 鳥居塚和生著、寺澤捷年監修(2003年)医歯薬出版

※ちなみに鳥居塚氏は現在昭和大学薬学部教授で、1980年当時富山医薬大附属病院薬剤部で私の同僚だった男性です。